


掲載号・キーワード・執筆者	内容
<p>その 5 (ニューズレター No.67 2011.12.16) 「安全・安心まちづくり」 執筆：木梨</p>	<p>安全・安心まちづくりとは、都市空間の人間に対する安全、都市の生活における安心を確保するためのまちづくりのことです。例えば、地震災害や火災に対する「防災」、犯罪に対する「防犯」、交通事故に対する「交通安全」のまちづくりなどが挙げられます。水害や土砂災害等の被害が発生しやすいという地形的特徴を持つ低平地佐賀では、特に防災に対する安全・安心の確保が重要な課題とされていますが、防犯や交通安全に関する取り組みとも調整をはかりながらまちづくりの方向性を決定していくことが大切です。防災、防犯、交通安全の 3 つの安全・安心を確保する具体例として、交差点等の角地の隅切りがあります。これは、災害時には道路確保や避難のしやすさに寄与しますが、防犯面からは道路の見通しを確保しひったくりなどの犯罪を抑止することが可能となり、交通安全面からは交差点部の円滑な通行を促し交通事故を防止する効果があります。また、安全・安心まちづくりでは、物的・空間的な整備による安全の確保のみでなく、人的・社会的取り組みによる安心の確保と組み合わせる実施されることが必要不可欠です。</p>
<p>その 6 (ニューズレター No.68 2012.3.16) 「在郷町 (ざいごうまち)」 執筆：三島伸雄</p> 	<p>在郷町とは、中世から近世にかけて、主に農漁村部などで商品生産の発展に伴って発生した町・集落のことです。郷（いなか）で自然発生的に成立し、町の中心となる施設（城郭、有力な寺社、宿場機能）がなく、生業の発達や多様化とともに町としての特質を備えたものでもあります。</p> <p>そのような在郷町のなかで、佐賀の有明海沿岸在郷町として今日に姿を伝えているのが鹿島市肥前浜宿にある「浜庄津町・浜金屋町重要伝統的建造物群保存地区」とその周辺です。船津と呼ばれるエリアでは漁業を中心とする生業が営まれ、庄金と呼ばれるエリアでは金物業他の商業が発達しました。そして、茅葺町家が数多く残っており、棧瓦葺町家と軒を連ねて町の景観をつくっています。このように茅葺町家が数多く残る在郷町は全国的にもなく、文化的価値が高いと評価されています。</p>